

平成 26 年度 第 5 回新潟市環境審議会

議 事 概 要

1 日 時 平成 27 年 3 月 30 日 (月) 午前 10 時から

2 会 場 白山会館 (新潟市中央区一番堀通町 1-1)

3 出席者 別紙名簿参照

4 事務局 中澤環境部長、松田環境部次長、吉田環境部次長、三富環境政策課長 小林環境企画係長ほか

<p><配布資料></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次第 ○ 座席表／出席者名簿 ○ 資料 1：第 4 回新潟市環境審議会からの主な修正点 ○ 別 紙：指標項目の設定について ○ 資料 2：パブリックコメント意見対応一覧 ○ 資料 3：第 3 次新潟市環境基本計画 (案) について (答申案) ○ 資料 4：新潟市の環境の状況について
<p>< 議 題 1 ></p>	<p>第 3 次新潟市環境基本計画 (案) について (答申)</p> <p>【資料 1 から資料 3 に基づき説明】</p>
<p>波 多 野 委 員</p>	<p>資料 1 No. 4 及び No. 6 について</p> <p>「自動車利用の削減」及び「料理はできるだけ食べきるようにし・・・」という文章の修正について、分かりやすいものになったと思う。</p>
<p>池 田 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 1 No. 7 について</p> <p>P56 の環境配慮指針の項目「グリーン購入基本原則に基づき・・・」と「環境配慮活動に積極的な・・・」の項目をつなげて一つの項目にしてはどうか。具体的には、「・・・配慮した製品を選択するとともに、環境配慮活動に積極的な・・・」とするのはどうか。</p> <p>ご指摘のとおり修正したい。</p>
<p>中 平 委 員</p> <p>三 富 課 長</p>	<p>資料 3 P 2 3 ～ 「低炭素社会の創造」</p> <p>文章と指標の設定の項目に関して、「もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用」の目標が「活用の実現」となっているが、具体的な数値目標を立てることはできないか。</p> <p>また、「太陽光発電システム導入量 (10k W未満)」が指標項目になっているが、エネルギー施策については、エネルギーマネジメントシステムの推進に関するものが中心になっているように読めるので、太陽光発電システムの推進に関する指標の他に、エネルギーマネジメントシステムに関する指標項目の設定も必要ではないか。</p> <p>「もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用」に関して、本来であれば具体的な数値</p>

<p>中平委員</p> <p>小泉 スマートエネルギー室長</p> <p>千葉会長</p> <p>三富課長</p> <p>中平委員</p>	<p>目標の設定を行うことが望ましいが、新年度事業において、もみ殻の活用に関する実践的な実施計画を定めていくことにしており、具体的な指標項目についてはそちらで定め、数値を追っていくことにしたいと考えている。</p> <p>太陽光発電システムについては、平成24年7月から始まった固定価格買取制度が牽引役となり、普及が進んできているが、家庭の屋根に設置するような小型の太陽光発電システムの設置については、自立分散型の電源として、今後も設置を促進させていきたいと考え、指標項目として設定させていただいている。</p> <p>エネルギーマネジメントシステムについては、今後、太陽光発電システムとセットで普及が進んでいくのではないかと考えているため、まずは太陽光発電システムの普及に関する指標項目を設定させていただいている。</p> <p>太陽光発電システムとセットで普及させていくといった文言があれば伝わると思うので、文言を追加したらどうか。</p> <p>エネルギーマネジメントシステムの項目については、設置状況の把握が難しいこともあり、単独での指標設定ができていない。平成27年度には、スマートエネルギー推進計画の改定を予定しているが、その中でエネルギーマネジメントの普及に関する具体的な指標項目の設定について検討していきたいと考えている。</p> <p>中平委員からの意見を踏まえ、答申案の修正は可能か。</p> <p>具体的な数値の設定が難しいため、現在の指標に「エネルギーマネジメントシステムの設置を含む」といった文言を追加するという形ではいかがか。</p> <p>そのように対応していただけたら、本文とも指標がつながるため、わかりやすくなると思う。</p>
<p>志賀委員</p> <p>三富課長</p> <p>志賀委員</p> <p>千葉委員</p> <p>松田部次長</p>	<p>資料3 P42 生物多様性の保全に関する指標の設定について</p> <p>「特定外来生物の種類」を減らすことを目標にしているが、「特定外来生物の量」についても考える必要があるのではないかと考えている。種類自体が減少しても、その他の種が増えてしまっただけでは問題であるし、そもそも種類の減少を証明することも難しいのではないかと考えている。</p> <p>量が把握できないのであれば、種類が減ったか把握することも難しいのではないかと考えている。鳥屋野潟や佐潟といった主要な湖沼においては、継続的に調査を行うことで、外来生物が「いる」か「いない」かの判断を行っているため、量については把握できないと考えている。鳥屋野潟や佐潟といった主要な湖沼においては、継続的に調査を行うことで、外来生物が「いる」か「いない」かの判断を行っているため、こうした調査を通じて、指標の進捗管理を行っていく。</p>

志賀委員	当該指標においては種類についての目標のみでもいいと思うが、毎年の進捗管理の際には、目標に対する進捗状況を把握するためにも、種類以外の評価も行っていただきたい。
菅井委員	量も目標に設定すると進捗管理が大変になるので、「特定外来生物の種類」を目標に設定し、その進捗状況を量る指標として、「特定外来生物の量」を報告していくのはどうか。
三富課長	指標項目については原案のとおりとし、達成状況を評価する際には、目標への進捗状況がわかる様な形での評価を実施していきたい。

資料3 P42 生物多様性の保全に関する指標の設定について	
志賀委員	<p>生物多様性の象徴としてハクチョウの越冬数を指標項目に設定していることは理解できるが、ハクチョウの越冬数の評価だけで、生物多様性の評価を行うべきではないのではないか。</p> <p>新潟市は、市域の絶滅危惧種をまとめたレッドリストを作成しているが、そこで指定される動植物の種類を減らすなどの具体的指標を設定してはどうか。</p>
三富課長	ハクチョウのみを指標項目に設定している理由として、新潟市らしい切り口での指標の設定が必要という考えに立ち、平成26年10月に市の鳥「ハクチョウ」を選定した経緯もあり、今後も引き続き日本一の飛来数を誇る新潟市であってほしいという思いから、当該目標を設定している。
志賀委員	ハクチョウ以外の動植物を目標に設定することはできないか。
千葉会長	生物多様性の保全について市民に理解いただくための指標としてハクチョウを目標にしたという経緯があるが、専門家の視点から見ると、多様な動植物で成り立つ生物多様性という視点が必要なかもしれない。

資料3 P50 第3部「環境配慮指針」について	
中村委員	第3部「環境配慮指針」を今後どのような方法で市民に広めていくかは、施策に関わってくる重要な要素であり、実際に広める際には、環境配慮指針で記載する内容を更に具体的に説明する必要があると考えている。市民の環境行動促進に向けた働きかけについて、どのように考えているか。
中澤部長	<p>ご意見のとおり、いくら良い計画を立てても、実践されなければ意味がないということで、環境基本計画においては、総合計画と同様、市民・事業者に取り組んでいただくということをコンセプトに策定を進めてきた。</p> <p>それを具体化していくために、ごみ減量に関するスマートフォンアプリの開発や、環境行動の実践に対してインセンティブを付与するポイント制度の実施などの個々の施策を通じて、環境行動の必要性を市民と共有し、取組みを進めてまいりたいと考えている。</p>
中村委員	「市における環境配慮」については、あまり具体的に書かれていないように感じるが、

中澤部長	<p>市民・事業者の取組みを推進する趣旨の記載が必要ではないか。</p> <p>市民・事業者の行動を促すための具体的な施策については、8年間の計画であるため、明記することは難しいが、具体的取組みについては、本計画に基づき、進めてまいりたい。</p>
中平委員	<p>資料3 P50 第3部「環境配慮指針」について</p> <p>「市における環境配慮」について、第2部「施策の展開」において、「災害に強い社会基盤整備」や、「良好な景観の形成」、「自然環境の保全」など、両立ができない項目もあるかと思うが、それらの折り合いについては議論されているか。</p>
三富課長	<p>災害に強い社会基盤整備を進めていくにあたっては、環境影響評価条例に基づく環境保全のための事前配慮や、国の法律や、県の条例に基づく環境配慮を行っていきたくと考えている。</p> <p>61ページの「市における環境配慮」は、言い換えると「市役所における環境配慮」であり、対外的な内容のものでなく、市役所・区役所・水道などの市の機関が、一つの大きな事業所のようなイメージで環境配慮を進めていくという趣旨で記載している。</p>
千葉会長	<p>各方面からいろいろな意見をいただいたが、資料3に意見を踏まえた修正を加え、後日委員の皆様にお知らせすることとするが、いったんこの場で意見をとりまとめたという形で答申を行いたい、よろしいか。</p>
各委員	<p>— 異議なし —</p>
千葉会長	<p>それでは、以上の内容で第3次新潟市環境審議会について答申する。</p>
中澤部長	<p>— 部長あいさつ —</p>
< 議題2 >	<p>新潟市の環境の状況について</p> <p>【資料4に基づき各担当から説明】</p>
波多野委員	<p>「にいがた未来ポイント事業」について</p> <p>「にいがた未来ポイント」について、車の利用を減らすために、公共交通機関を利用する際にポイントを付与するのはどうか。</p>
三富課長	<p>新潟交通は、「りゅーとカード」の利用の際に乗車ポイントを付与しているが、「にいがた未来ポイント」においては、環境行動でポイントが貯まった場合にバスの乗車ポイントへ交換できるというしくみを考えている。それによって公共交通の利用促進を図っていきたくと考えている。</p>
波多野委員	<p>「りゅーとカード」を使わないと参加できないか。</p>

三 富 課 長	フェリカポケットの機能を搭載した携帯電話である「おサイフケータイ」でも参加が可能である。
波 多 野 委 員	この事業への参加者はどの程度を想定しているか。
三 富 課 長	<p>抽選制度については、制度の内容説明と共に応募用紙を付けたパンフレットを、公共施設や市内スーパーマーケット等に配布する予定であり、その中で「りゅーとカード」を使った「にいがた未来ポイント」についても紹介する。</p> <p>「にいがた未来ポイント」については、年間1,000人程度のポイント交換者を見込んでおり、4年間で4,000人を想定している。</p>
池 主 委 員	フェリカポケットを使わないとポイント付与ができないということか。
三 富 課 長	事業のスタートはそういった形で開始したいと考えている。
池 主 委 員	フェリカポケットのみだとハードルが高いので、アナログでもいいので、もっと簡単に「にいがた未来ポイント」に参加できるようにしてはどうか。
三 富 課 長	<p>公共交通の利用促進という趣旨や、地域カードとしての発展も期待し、まずは「りゅーとカード」、「りゅーとカード」を持っていない方は「おサイフケータイ」と考えている。</p> <p>それらをお持ちでない方については、抽選制度にご参加いただきたいと考えている。</p>
中 村 委 員	当該事業においても、対象者が幅広い世代になるかと思うが、それぞれの世代に何かしらの形で引かかるような制度上の仕組みが必要であると考えます。
三 富 課 長	事業を実施していく中で課題や改善点等が出てくると思うので、適宜工夫しながら事業を進めていきたい。
田 辺 委 員	「にいがた未来ポイント」について、多くの市民に制度を理解してもらうことが必要である。町内の回覧板やメディアなどを通じるなど、多くの世代への周知が図れるような工夫を行う必要があると考える。環境基本計画の概要版の配布についても、同様の工夫が必要であると考えます。
三 富 課 長	回覧板を使った周知や、あるいは直接説明を行うなどの取組みが大事だと感じている。現在、家庭への省エネ行動を促進するための講座を、コミュニティ協議会や町内会単位で開催したいと考えており、その際に、「にいがた未来ポイント」についても説明させていただきたいと考えている。

<p>水質環境について</p>	
田 辺 委 員	水質環境について、基準を満たしていない地域があり、環境白書においても水環境の現状把握を公表していくこととしているが、未然防止の観点からの施策の実施や、未達成項目の原因究明なども進めていただきたい。

松田次長	環境基準未達成の海域については、新潟県などとも連携しながら対応を進めていきたいと考えている。水質に関しては、工場への規制や、下水道の整備などを通じて、水質汚濁の防止に向けた取り組みがいっそう重要になると考えている。
菅井委員	海域での水質汚染の数値が高いというのは、今までも言われてきたことだが、ただ基準を超えているというだけではなく、数値が低くなってきているのか、横ばいなのか、高くなってきているのかを知ること必要だと考える。
松田部次長	海域の状況は、長期間に、数値が高くなってきている状況にある。新潟県や研究機関と連携しながら原因究明を進めていきたいと考えている。
千葉会長	海域の環境基準項目について長期間に渡り基準項目の未達成が続いており、新潟県と連携して対応しているとのことだが、これに対する国の関与はあるか。
松田部次長	国、県とも連携して河川の調査を行っているが、海域での原因究明等については、まず新潟県と連携して実施している。
田園資源活用推進事業について	
菅井委員	もみ殻の活用について、利用可能量が20,558トンということだが、この量は事業化するのに十分な量なのか。
三富課長	もみ殻を熱エネルギーとして利用されることを期待しており、ハウスでの暖房や公共施設で熱源として使うことなどを考えている。熱エネルギーとして20,558トンは十分利用できる数値であると考えている。 もみ殻の用途や事業性も含めて、当該事業で検討していきたいと考えている。
原田委員	最近、農業分野においては、バイオ炭というものが注目されているが、このことについても検討しているか。
三富課長	もみ殻の炭化についても、利活用の一つとして検討していきたいと考えている。
騒音環境について	
中村委員	新幹線鉄道騒音について、前回も基準を未達成だったかと思うが、JRに報告したあと何らかの返事をいただいているのか。
松田部次長	新潟県と共にJRへ要望書を提出している。返事等はいただいている。
【議事終了】	